

解答

一

- 問一 一心の疾走に近づきたい
問二 ひらりが見た人
問三 イ
問四 ア
問五 ウ
問六 ア
問七 ライバル
問八 情熱
問九 エ
問十 ウ
問十一 ② かいが ⑥ くちょう ⑧ さか「らう」 ⑪ 推測 ⑮ 適度

二

- 問一 質
問二 十色
問三 ウ
問四 感覚の確認と発見の両方
問五 ア
問六 イ
問七 それは自分
問八 普段使っている道徳や考え方
問九 エ
問十 エ
問十一 ① 単純 ② 反映 ⑪ 心境 ③ ぐあい ⑥ そ「って」

解説

一

- 問二 — ③の前には、妹のひらりが、公園の方からくる中学生くらいの男の人と、自転車ですれ違った様子が描かれています。その人は一心ではないかと走哉が思っているとき、一心に出会ったことから、あてはまる言葉として「ひらりが見た人」という内容が考えられます。
問九 — ⑭の前に着目します。疲弊しても走り続け、倒れてしまった走哉をみて、一心があわててかけより、「おい、だいじょうぶか!」と声をかける様子から、もっともふさわしいものとして選択肢エが選べます。

二

- 問四 本文の最後から、筆者の主張がわかります。読者である僕達が「感覚の確認と発見の両方」を意識して楽しもうと思うことによって、読書はさらにももしろいものになってゆくと思うと述べています。
問八 — ⑬の前から、「それ」とはシェア率ナンバーワンの商品のことであり、「普段使っている道徳や考え方」を例えたものであることがわかります。